

IAMAS 図書館便り

IAMAS [イアマス] とは、情報科学芸術大学院大学の英語表記の頭文字を取った略称です。



『美術×映像』（美術出版社） | "Image Collection by HOSONO" OMIYAGE - YMO 写真集（小学館）

特集 映像表現 前田真二郎

→ 自著を語る / 思い出の一冊 / 学生に薦める一冊

- 図書館を活用する
- 数字でみる IAMAS Library
- お知らせ



この特集では、IAMASの教員に、自著・思い出の一冊・お薦めの本などを紹介してもらいます。第9回は、図書館長の前田真二郎教授です。

→自著を語る

松本俊夫編『美術×映像』

自著ではないが、忘れられない寄稿した書籍に『美術×映像』がある。前半は、映像作家・松本俊夫が、建畠哲、森村泰昌、東芋、岩井俊雄との対話から美術と映像の関係を読み解いていくというもので、後半は、当時完成したばかりのオムニバス映画『見るとのこと』について紙面が割かれている。この作品は、松本俊夫が企画・構成を担当し、その後『蠅螂の斧』三部作として完成するその第一部である。筆者はその企画で短編『星座 constellation』を制作した。寄稿したテキストとは、この作品の制作プロセスを綴った撮影日誌である。8,000字にまとめて欲しいとの依頼に、苦しみながらも楽しく執筆した。作品を未見の読者にとっても「映像」について思いを巡らせるようなテキストを目指した。



美術出版社
/2010年

→思い出の一冊

『OMIYAGE YMO写真集』(Goro特別編集)

筆者は、中学に入学した1981年を、突然、大人の世界に繋がったかのような鮮烈な年として記憶している。この年からFMラジオ番組「サウンドストリート（火曜日）」を、当時人気の音楽グループ・YMOの坂本龍一が担当することになり、毎週刺激的な音楽に接することになったのだ。また、YMOの『BGM』『テクノデリック』という実験的な2枚のアルバムが発売されたのもこの年だった。銀座のレコードショップで開催された『テクノデリック』発売先行試聴会なるものに友人と参加し、言葉にならない衝撃を味わいながら自転車で帰宅したことを覚えている。そのような年に発売された『OMIYAGE』は何度も繰り返し見て、読んで写真集だった。欧米を巡ったワールドツアーの写真を中心に、機材やシステム図の紹介、メンバー3名のインタビューなど盛りだくさんの内容で、Image Collectionなるコーナーでは、3名それぞれのお気に入りのものが見開きに30枚くらいの写真で並べられ、次ページにそれらが解説される構成だった。そこでは、食べ物や嗜好品にはじまり、釣り、漫画、アート、ファッション、オカルトなど多分野にわたる興味深いものがズラリと紹介されていた。音楽の魅力から購入した写真集には大層大人っぽい世界が広がっていたのである。それぞれのインタビューでは、坂本龍一は高校時代の学生運動について、細野晴臣はYMO結成前の虚無的な状況について、高橋幸宏は自身の神経症のことなどが赤裸々に語られていた。当時の筆者がどういった心持ちでこの知らないことだらけの写真集と向き合っていたのかは正確には思い出せない。ただ、未知なる文化の熱気を紙面から受けとめ、憧れを抱いて眺めていたことは事実だろう。高橋悠治やクセナキス、阿部薫といった



小学館/1981年

人名はこの書籍からインプットされたに違いない。音楽家に限らず、彼らが語る様々なアーティストに興味を持った。中学生の知的好奇心を大いに刺激したこの『OMIYAGE』から、映画監督ゴダールの名前も知ったように思う。その後、たびたび書籍で目に触れる彼の監督作品は、高校2年生の時に映画館で観ることが叶う。大きく心を揺さぶられ、映像表現に強い興味を持つきっかけとなった。

→学生に薦める一冊

長谷正人編『映像文化の社会学』

本書は、写真、映画、テレビ、コンピュータなどを、テクノロジー史という観点から、アニメーション、インスタグラム、監視カメラ、心霊写真などを社会学として考察した書籍だ。映像についての専門知識を持たない人でも読みやすくまとめられている。巻末の参考文献リストは、メディア表現研究をすすめる上で大きな助けとなるはずだ。



有斐閣/2016年

図書館を活用する その3 先行研究はどこにあるか？

自分がとりかかろうとする研究テーマがすでに誰によってどこまで研究されているかを知ることは、研究をはじめるとあたっての第一歩である。1つのテーマでもいろいろなアプローチの仕方があり、自身の研究の新規性を主張するには先行する研究を踏まえておかなければならない。

研究成果はまず論文としてまとめられ発表される。その後何本か論文を発表し、研究成果が蓄積されたら、本としてまとめられ出版される。つまり、図書館に並んでいる本は、必ずしも最新の研究の動向を反映したものであるのではないのである。

しかし、1冊の本には著者（たち）が研究成果をまとめるにあたって参考にした文献のリストが必ず載っているはずだ。図書館で本を手にしたら、本文に付された注や巻末の参考文献などをまずチェックしよう。注や参考文献にリストアップされた先行研究を手がかりに、自分が関心をもった文献を集めていけばよい。

最新の研究動向は論文を調査することで掴むことができる。論文を調査するには CiNii (<https://ci.nii.ac.jp/>) や 国立国会図書館サーチ (<http://iss.ndl.go.jp/>) が便利である。CiNiiの場合は一部の論文について本文をPDFファイルで閲覧することも可能となっている。オンラインで閲覧できなくても、その論文を収録している雑誌を所蔵している大学図書館などに複写を依頼することができる。

最後に、このようにして集めた論文などの文献は必ずリスト化しておこう。論文作成のときに引用したり、参考文献として取り上げるときにあわせてなくてむ。



CiNii



国立国会図書館サーチ

数字でみる IAMAS Library

4万3千冊

2018年3月末時点での蔵書冊数である（雑誌・視聴覚資料等は含まない）。学生・教員の研究テーマは多岐にわたるが、芸術や情報技術、また領域横断なテーマが多い。学生・教員の研究分野に応じた研究書を購入しているため、芸術関係の本が全体の3割を占め最も多く、次いで情報技術関係、哲学思想関係の本の順となっている。館内では、プロジェクト演習に関連した資料のコーナーや教員・卒業生の本のコーナーを設けている。

40冊

2017年度の学生1人あたりの貸出冊数である。学生・教職員・学外者あわせ貸出冊数3,003冊のうち、学生が借りた本は1,878冊だった。IAMASの学生数が少ないことにも起因するが、全国の公立大学の平均（6冊・2015年度実績）を大きく上回っている。芸術関係の本が充実しているため、貸出される本も芸術関係の本が最も多く、4割程度を占めている。

お知らせ

→今年度も開催「今週の一冊」＆「大人のためのブックトーク」

小林昌廣先生による「今週の一冊」を毎週木曜日、18時30分から図書館を会場に開催しています。今年度ですでに5年目となり、幅広いジャンルから毎週一冊ずつ紹介された本は170冊を超えました。これまでに紹介された本のリストは、図書館のWebサイトに掲載しているほか、図書館内では実際に手に取って読むことができます。

また、岐阜県図書館において「今週の一冊」を拡大して3冊の本を紹介する「大人のためのブックトーク」を奇数月の土曜日（年6回）に開催しますので、ぜひ参加ください。



【今週の一冊】 毎週木曜日 18時30分～18時45分 IAMAS附属図書館

■開館時間 月～木 10:15～19:00 / 金 11:15～20:00

■休館日 土曜日・日曜日・祝日、年末年始、臨時休館日（蔵書点検など）

■貸出

学生 7冊・2週間以内

卒業生 5冊（図書のみ）・2週間以内

学外者 2冊（図書のみ）・2週間以内

<学外の方の利用資格>

- ・岐阜県在住・在勤の高校生以上の方
 - ・東海地区大学図書館協議会加盟大学の学生
- ※自習目的のご利用はお断りいたします。



情報科学芸術大学院大学 [IAMAS] 附属図書館 編集・発行

〒503-0807 岐阜県大垣市今宿6丁目52番地18 ワークショップ24 1F

TEL・FAX: 0584-75-6803 URL: <http://www.iamas.ac.jp/lib/>